

2019年12月期 第2四半期 決算説明会

2019年9月6日
市光工業株式会社

目次

- 2019年第2四半期業績概要（2019年1月～6月）
- 2019年12月期業績見通し（2019年1月～12月）
- 中期経営計画の進捗状況
- Appendix

2019年第2四半期業績概要 (2019年1月～6月)

地域別自動車生産台数 前年同期比較（速報ベース）

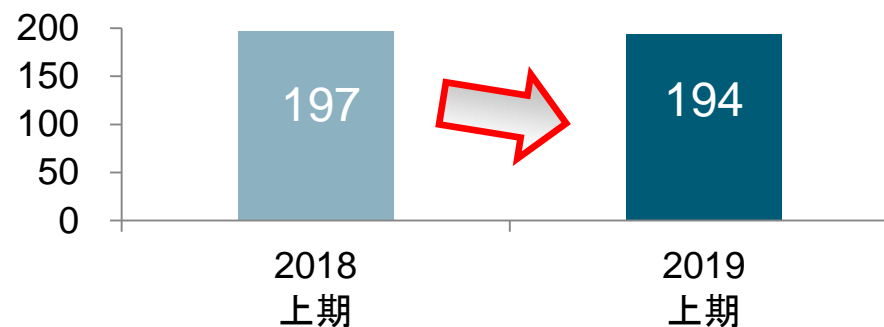
単位：万台

Japan 前年比 +2.5%



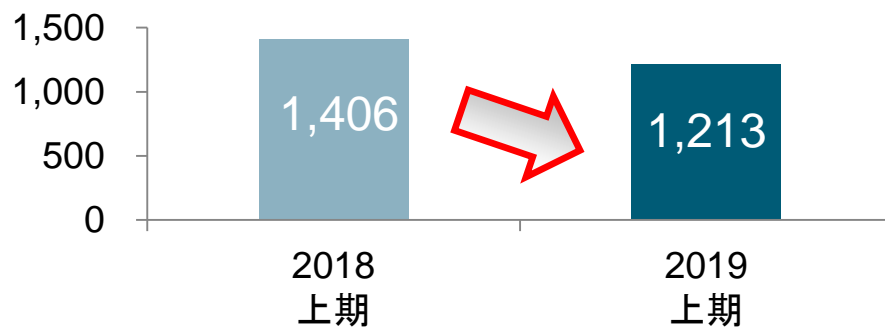
日本は中大型商用車含まない台数

ASEAN 前年比 ▲1.5%



ASEAN: Malaysia, Indonesia, Thailand

China 前年比 ▲13.7%



出展：MarkLines

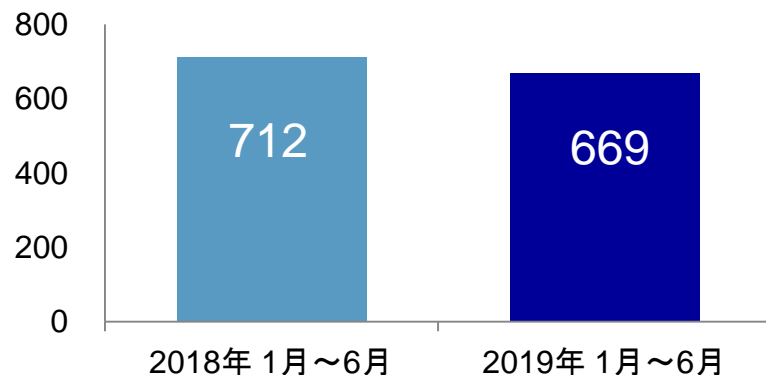
2019年第2四半期 連結業績概要 (対前年同期比)

単位：億円/四捨五入

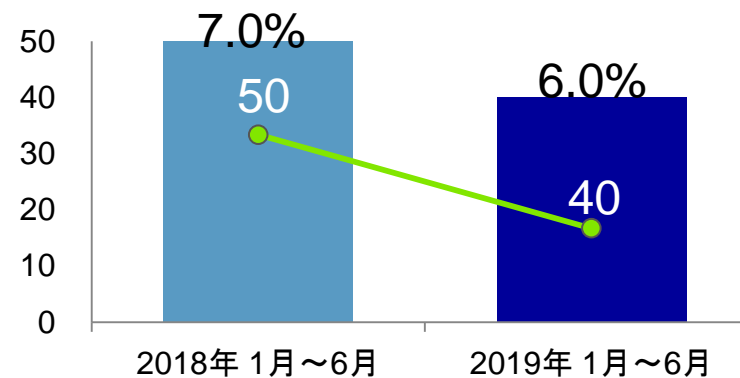
◆ 対前年同期比、減収減益

	前年同一期間 (2018年1~6月)	FY2019 実績 (2019年1~6月)	増減額	増減率
売上高	712	669	▲43	▲6.0%
営業利益	50	40	▲10	▲19.9%
営業利益率	7.0%	6.0%	-	▲1.0ポイント
経常利益	59	42	▲17	▲29.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	47	28	▲19	▲40.9%

連結売上高推移



連結営業利益推移



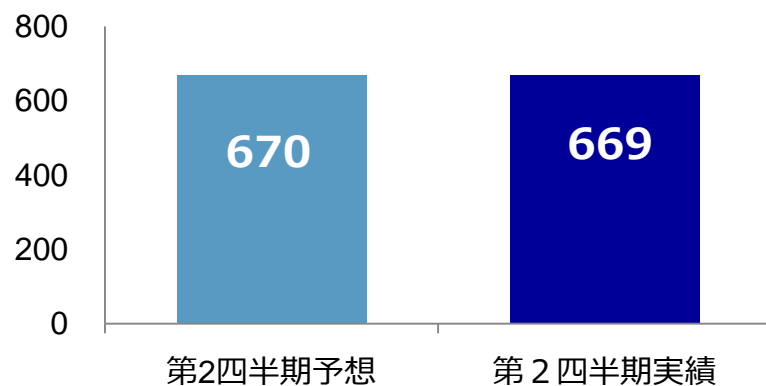
2019年第2四半期 連結業績概要（対予想）

単位：億円/四捨五入

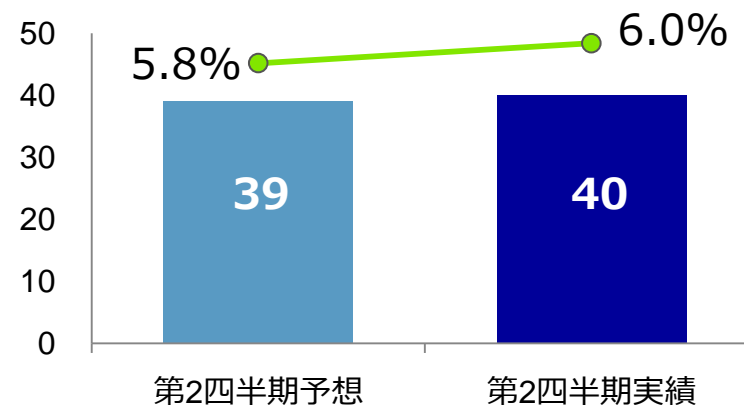
◆ おおむね予想通りの着地

	連結業績予想 (2019年1~6月)	実績 (2019年1~6月)	増減額	増減率
売上高	670	669	▲1	▲0.1%
営業利益	39	40	1	2.6%
営業利益率	5.8%	6.0%	-	0.2ポイント
経常利益	37	42	5	13.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	26	28	2	7.7%

連結売上高



連結営業利益



2019年第2四半期地域別業績

単位：億円/四捨五入

- ◆ 日本国内 輸出車種を中心とした減産と研究開発費増により減収減益
- ◆ 海外 ASEAN子会社合計で増収増益確保

	日本国内 (市光工業)	海外	その他	内部取引 消去等	合計
売上高	525 (567)	113 (116)	52 (52)	▲21 (▲24)	669 (712)
営業利益	33 (41)	9 (10)	0 (1)	▲2 (▲1)	40 (50)
営業 利益率	6.2% (7.2%)	8.2% (8.3%)	0.6% (1.3%)	-	6.0% (7.0%)

市光工業：単体ベース（伊勢原・藤岡・ミラー・本社）

海外：インドネシア・マレーシア・タイ・中国

その他：用品事業（PIAA）・バルブ製造販売事業（Life Elex）

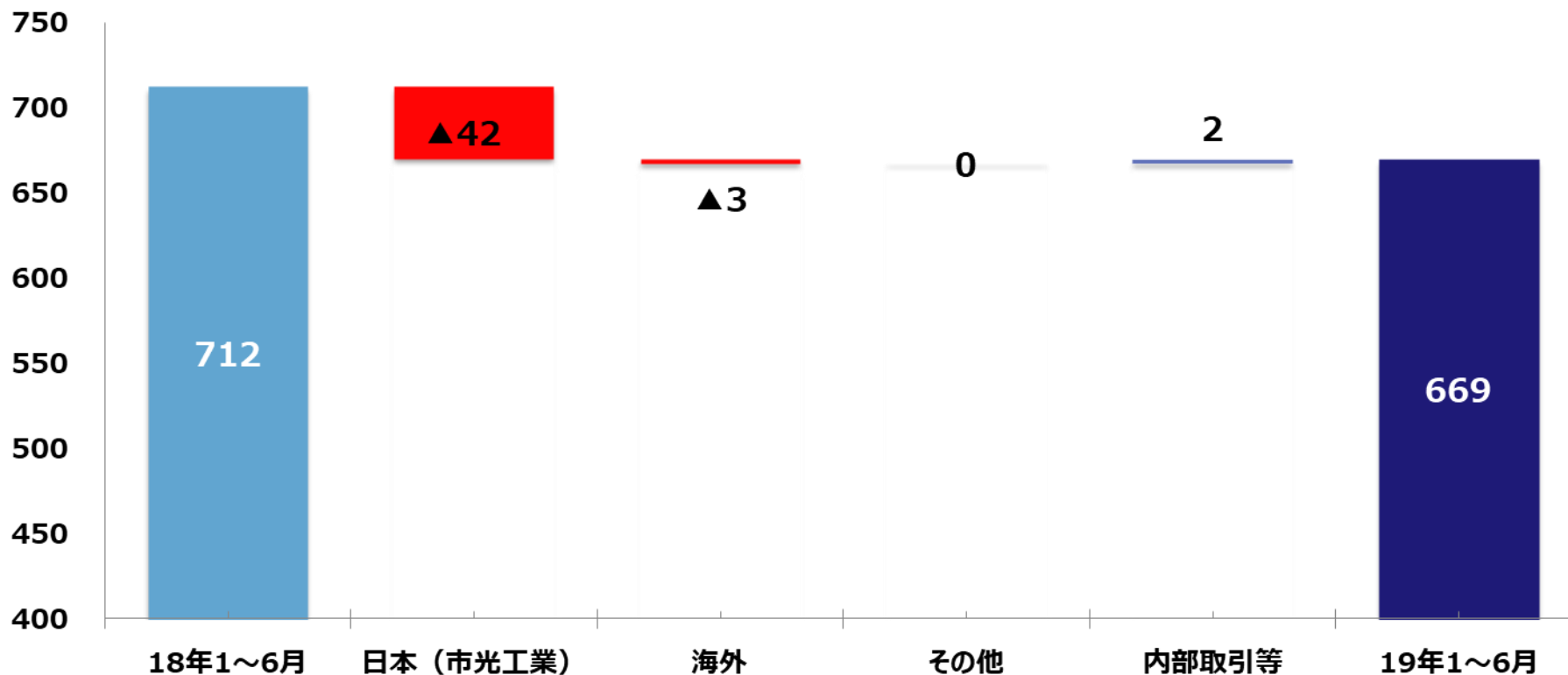
（ ）：前年同期（2018年1月-6月）の数値

2019年第2四半期 業績のポイント

単位：億円/四捨五入

売上高

- ◆ 日本国内 高付加価値製品販売堅調も、輸出車種を中心とした減産影響
一部OEMメーカーの検査対応による減産も影響
- ◆ 海外 ASEANはインドネシアを中心に増収確保するも中国は減収

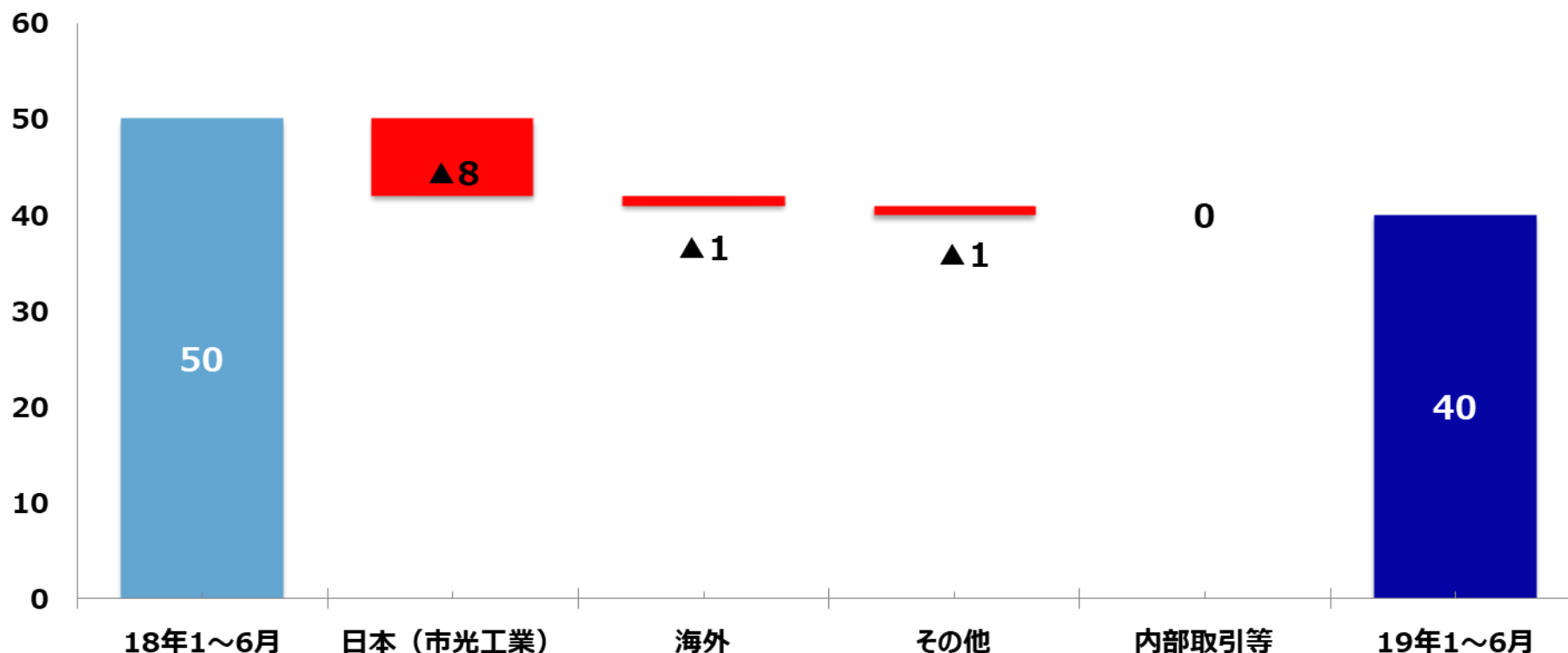


2019年第2四半期 業績のポイント

単位：億円/四捨五入

営業利益

- ◆ 日本国内 売上減の影響、研究開発費増加
- ◆ 海外 ASEAN増益も、中国の減益影響で海外合計では減益



2019年第2四半期 業績のポイント

対前年同期比較

- ◆ 国内ライティング事業は、輸出車種を中心とした減産、一部OEM先の検査問題による減産の影響などから減収減益
- ◆ ミラー事業は、国内は輸出車種などの減産の影響、中国は自動車生産台数の減少影響等から減収
- ◆ ASEANライティング事業は、インドネシアの売上増に加えオペレーションの改善などで増収増益

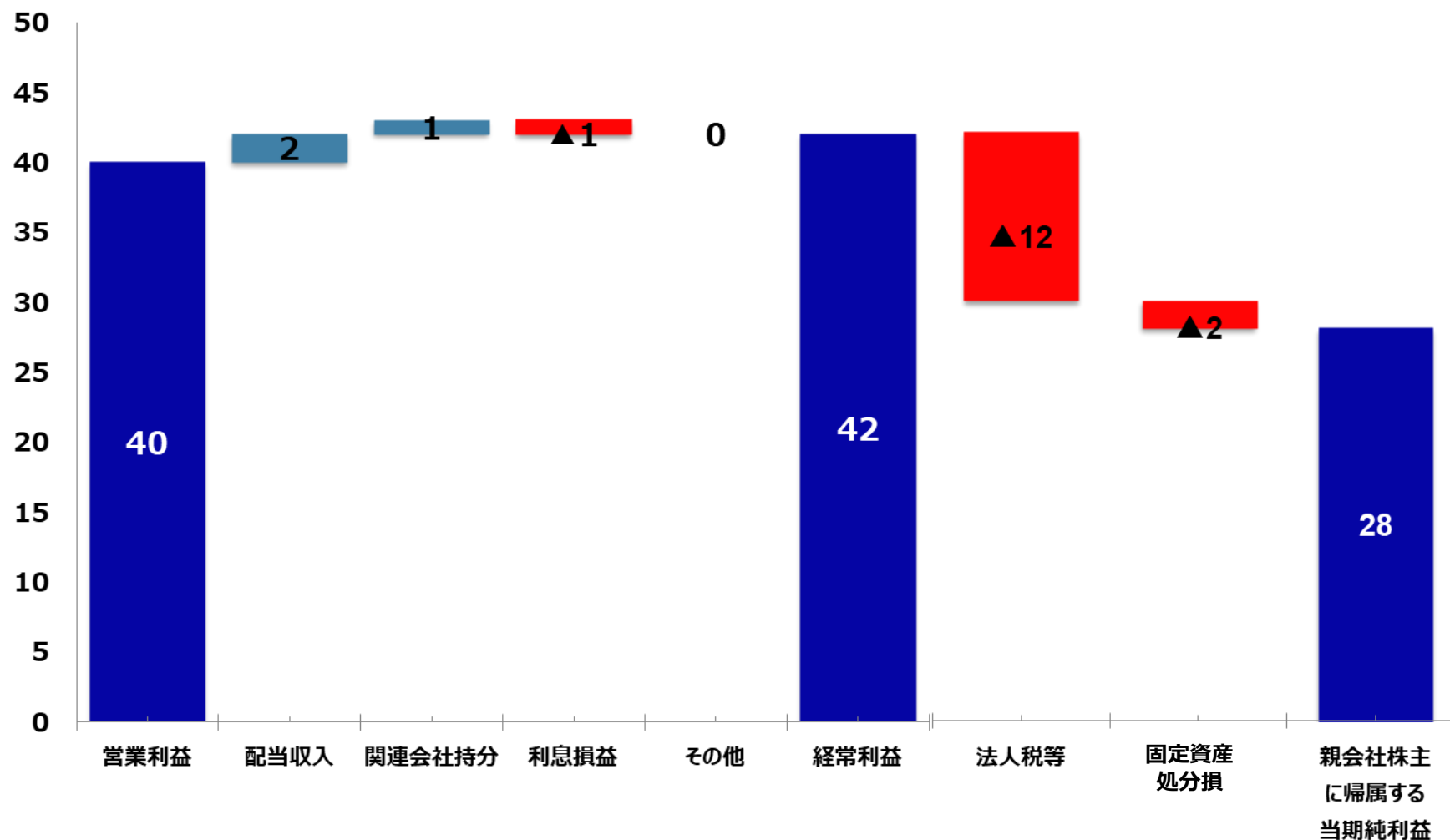
対予想比較

- ◆ 売上高は輸出車種を中心とする減産を堅調な高付加価値品の販売で補い、ほぼ予想通りの着地
- ◆ 利益面では国内およびASEANライティング事業での収益性・生産性向上により、予想を若干上回る実績

2019年第2四半期

【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】

単位：億円/四捨五入



2019年第2四半期 連結貸借対照表（前年度期末比）

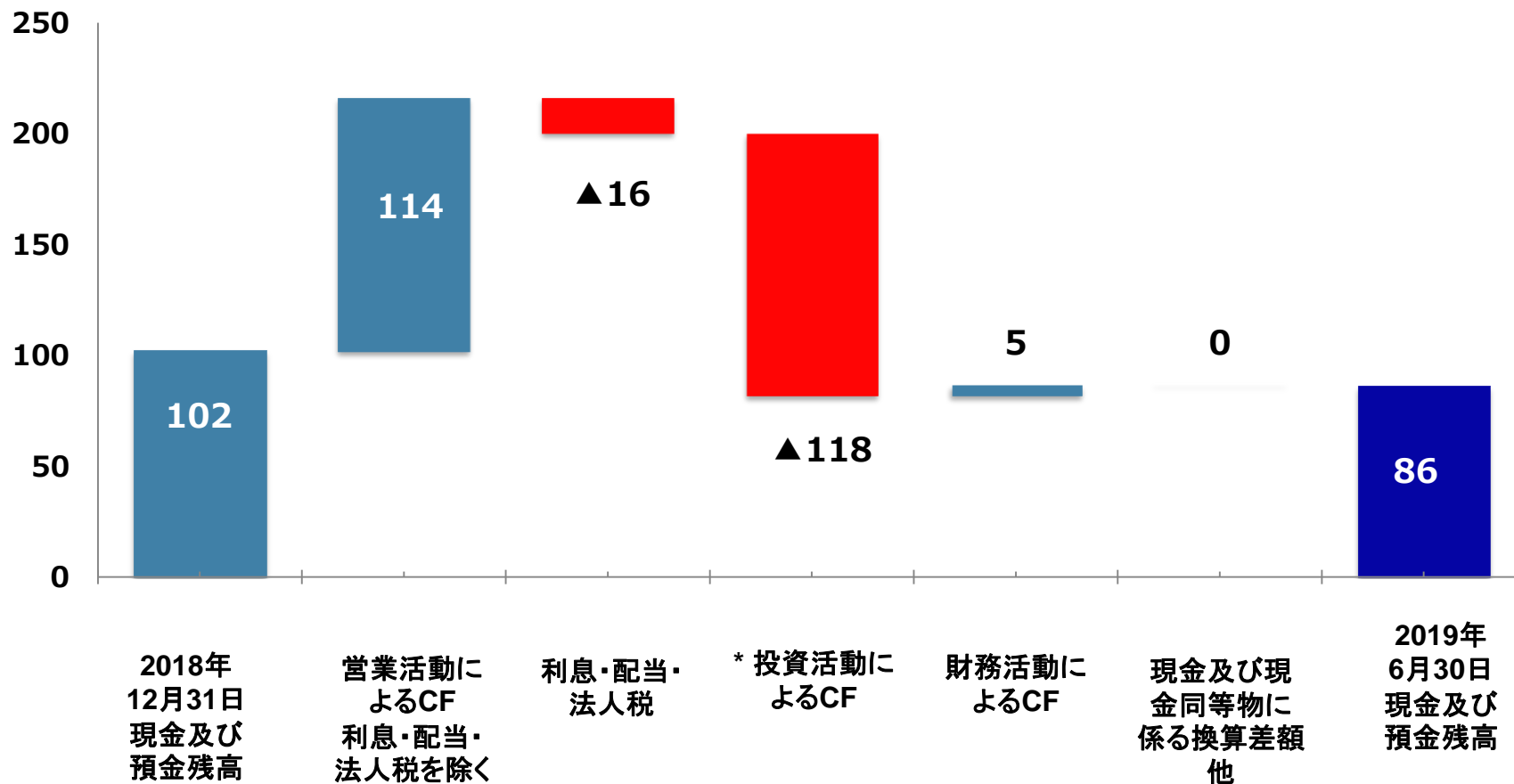
単位：億円/四捨五入

	2018/12	2019/6	増減
現金及び預金	102	86	▲16
棚卸資産	75	85	10
有形固定資産・無形固定資産	404	402	▲2
その他	443	489	46
資産の部	1,024	1,062	38
有利子負債	128	137	9
その他	496	502	6
負債の部	624	639	15
株主資本	412	436	24
その他包括利益累計額	▲24	▲25	▲1
非支配株主持分	12	12	0
純資産の部	400	423	23
自己資本比率	37.9%	38.7%	
D/E比率	32.9%	33.4%	

2019年第2四半期 連結キャッシュフロー（前年度末からの増減）

単位：億円/四捨五入

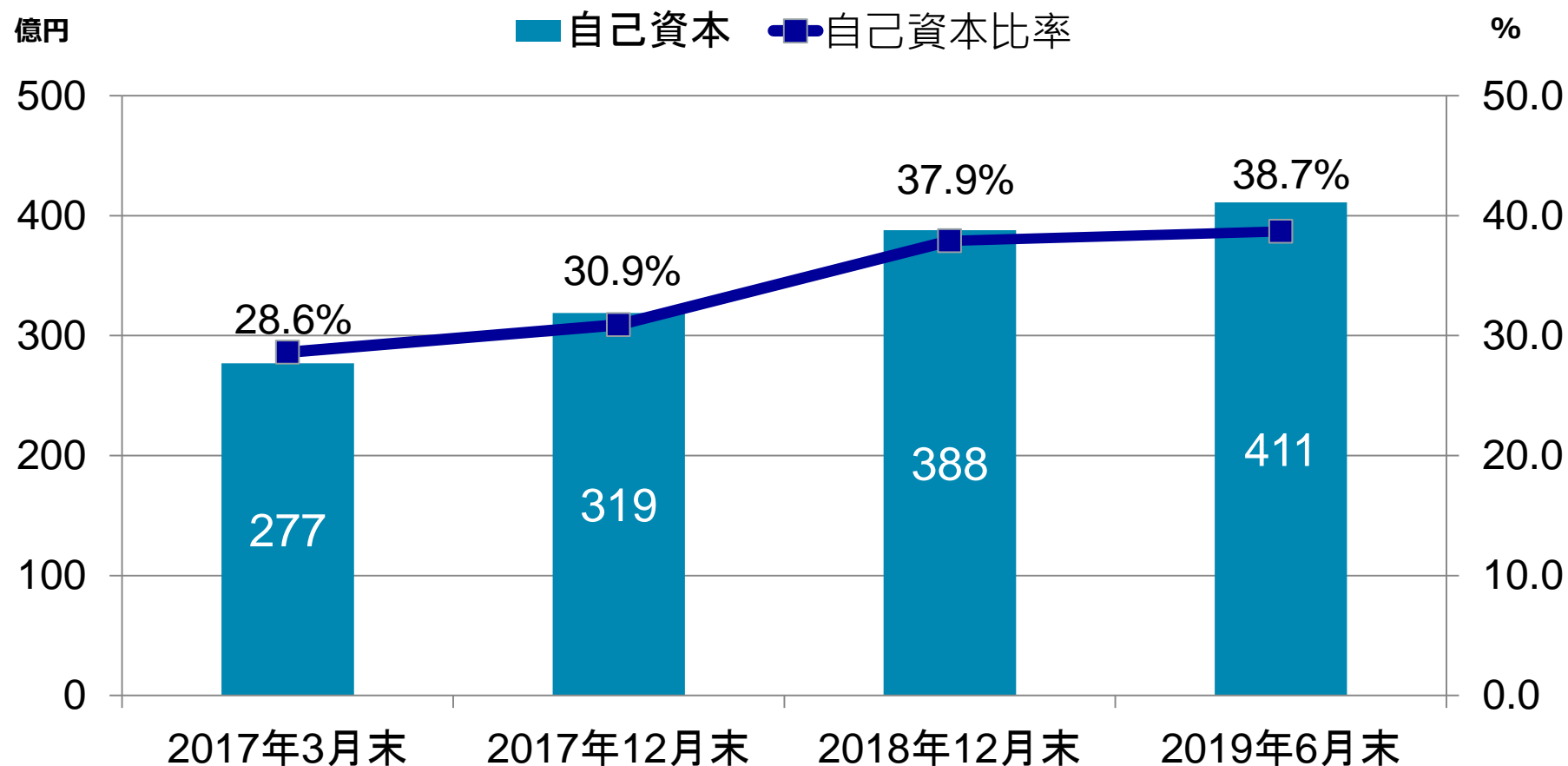
◆ 営業活動によるCFを設備投資等へ充当



* 投資活動の内、76億円がヴァレオへの短期貸付金、残額が設備投資への充当

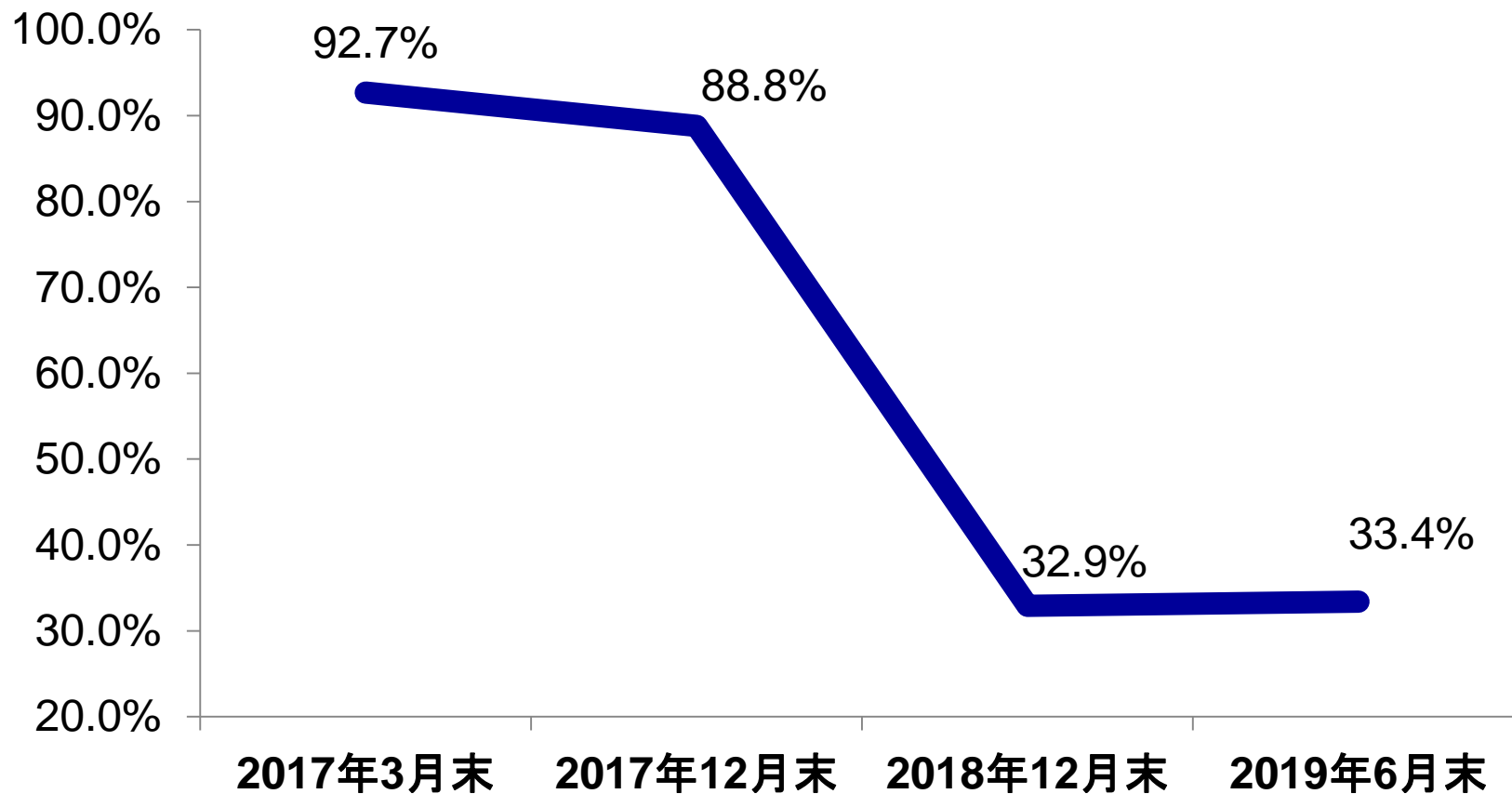
自己資本額と比率

自己資本着実に改善



D/E レシオ

D/E レシオは30%台と良好な水準を維持



2019年12月期業績見通し (2019年1月～2019年12月)

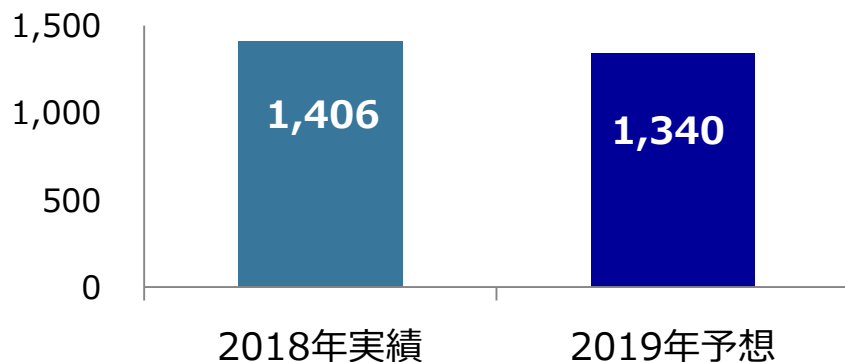
2019年通期 連結業績見通し

単位：億円/四捨五入

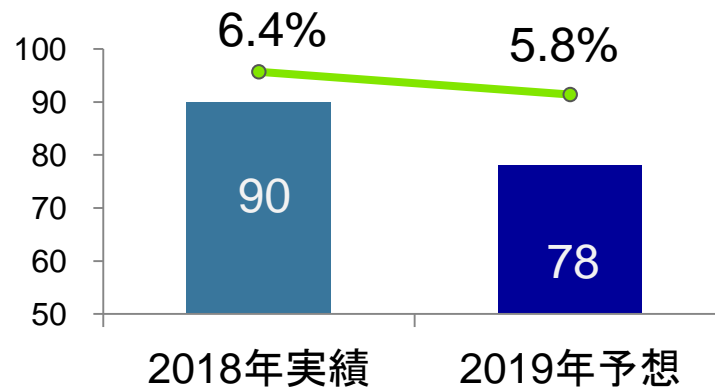
- ◆ 年初予想（東証発表数字）からの変更なし
- ◆ 19年下期も上期水準に近い業績を維持する見込み

	FY2018 実績	FY2019 予想	増減額	FY2019 年初予想 (東証発表数字)
売上高	1,406	1,340	▲66	1,340
営業利益	90	78	▲12	78
営業利益率	6.4%	5.8%	-	5.8%
経常利益	97	74	▲23	74
親会社株主に帰属する 当期純利益	98	50	▲48	50

連結売上高推移



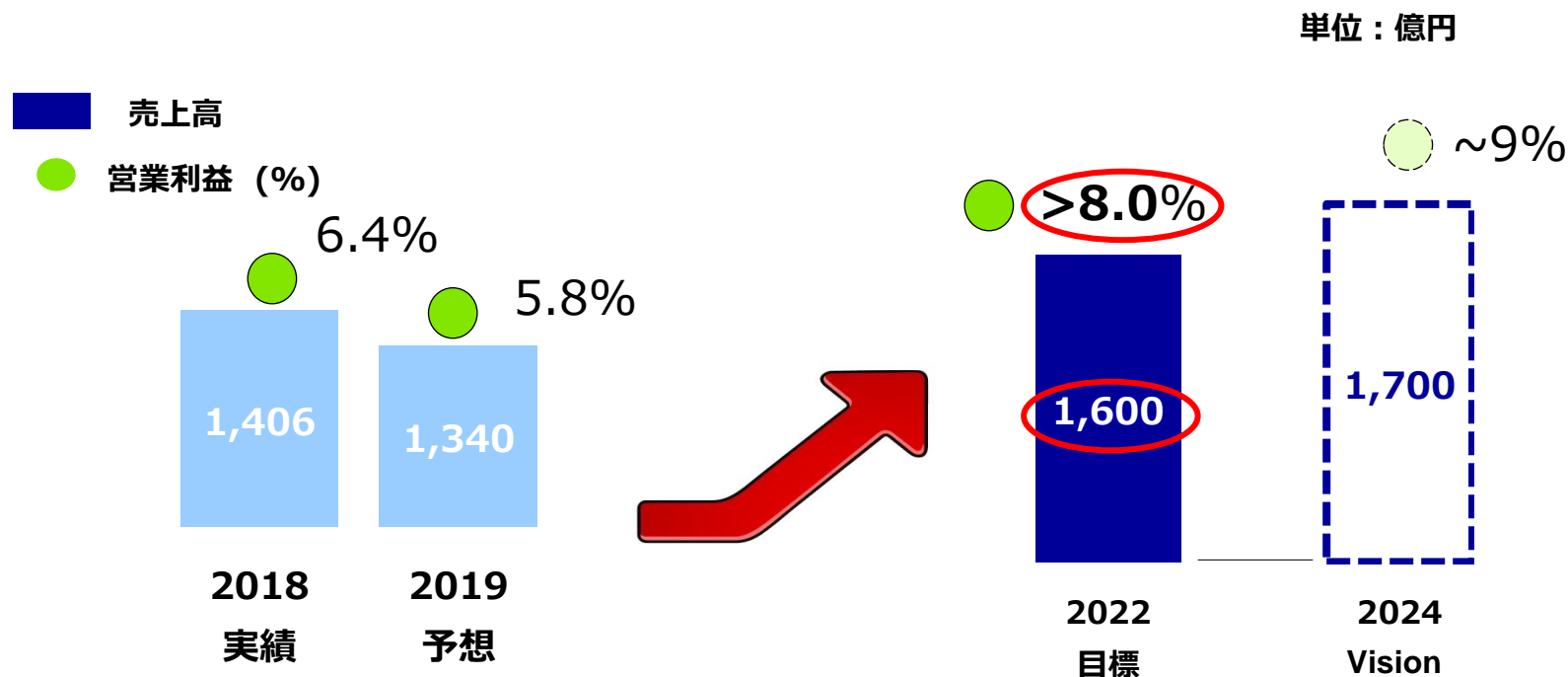
連結営業利益推移



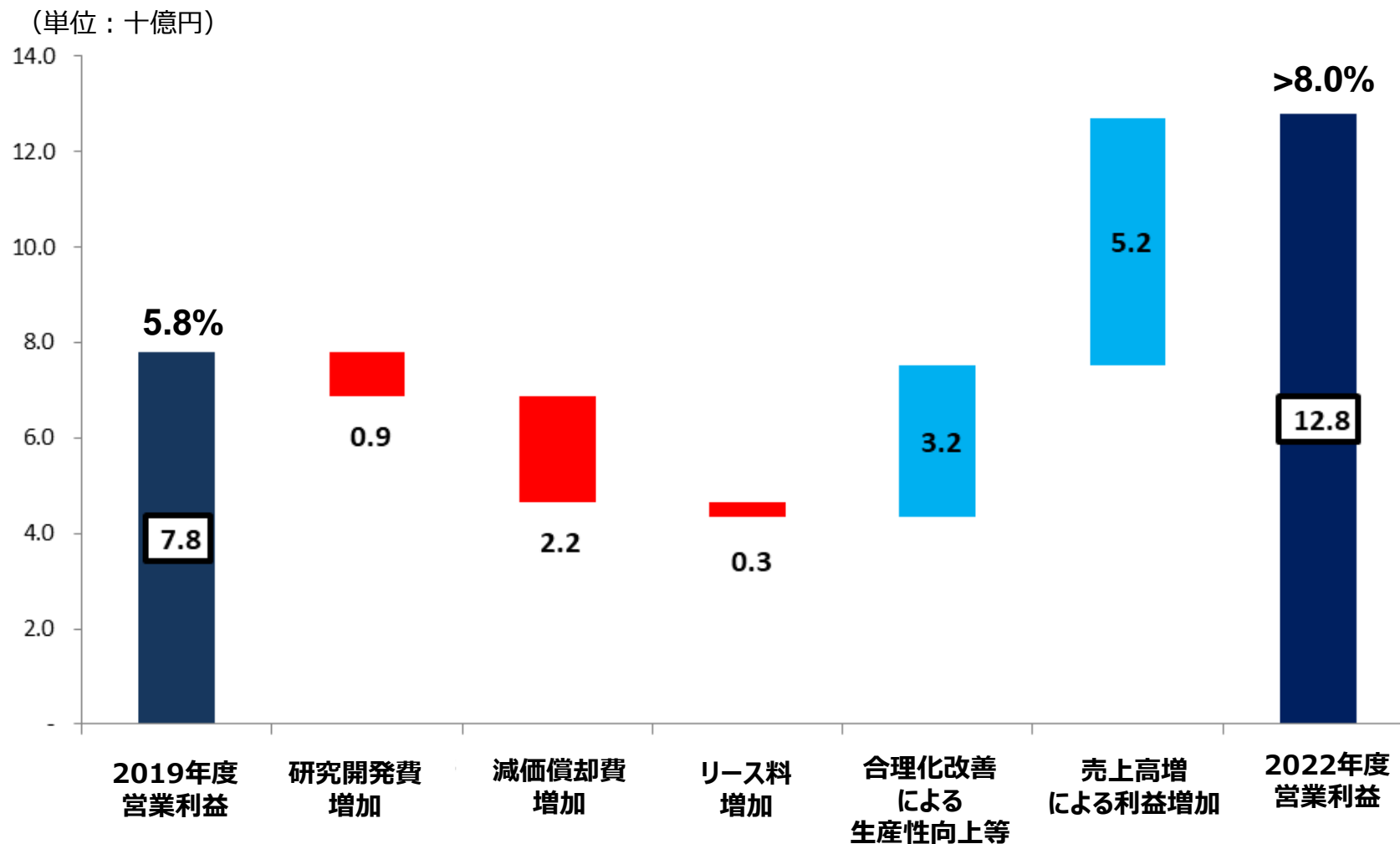
中期経営計画の進捗状況

中期経営計画 – 2022 2022年見通しに関して

- ◆ 2022 年の売上目標 に変更なし：1600億円
- ◆ 2022 年の営業利益目標についても引き続き 8%を超える水準を維持：>8.0%
 - ❖ 研究開発費と減価償却費の増加を吸収
 - ❖ これらの費用増は2022年以降のさらなる売上、営業利益の増加に貢献する見込み



中期経営計画 2019-2022 営業利益増減要因



中期経営計画 - 2022 進捗並びに課題

進 捗

Order Intake (受注) は
好調に推移

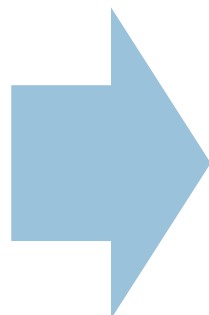
高付加価値品の比率上昇

❖ ヘッドランプ用 Adaptive Driving
Beam等

ASEAN売上の増加

❖ 特にインドネシアで顕著

厚木新製造所の竣工
藤岡製造所等での更新投資完了



中期経営計画 -2022 へのインパクト

○ 2022年の売上目標1600億円に向け順調に
進捗

○ 単価上昇による収益性向上
○ ヴアレオとのシナジー具現化加速
✓ 研究開発費負担は増加

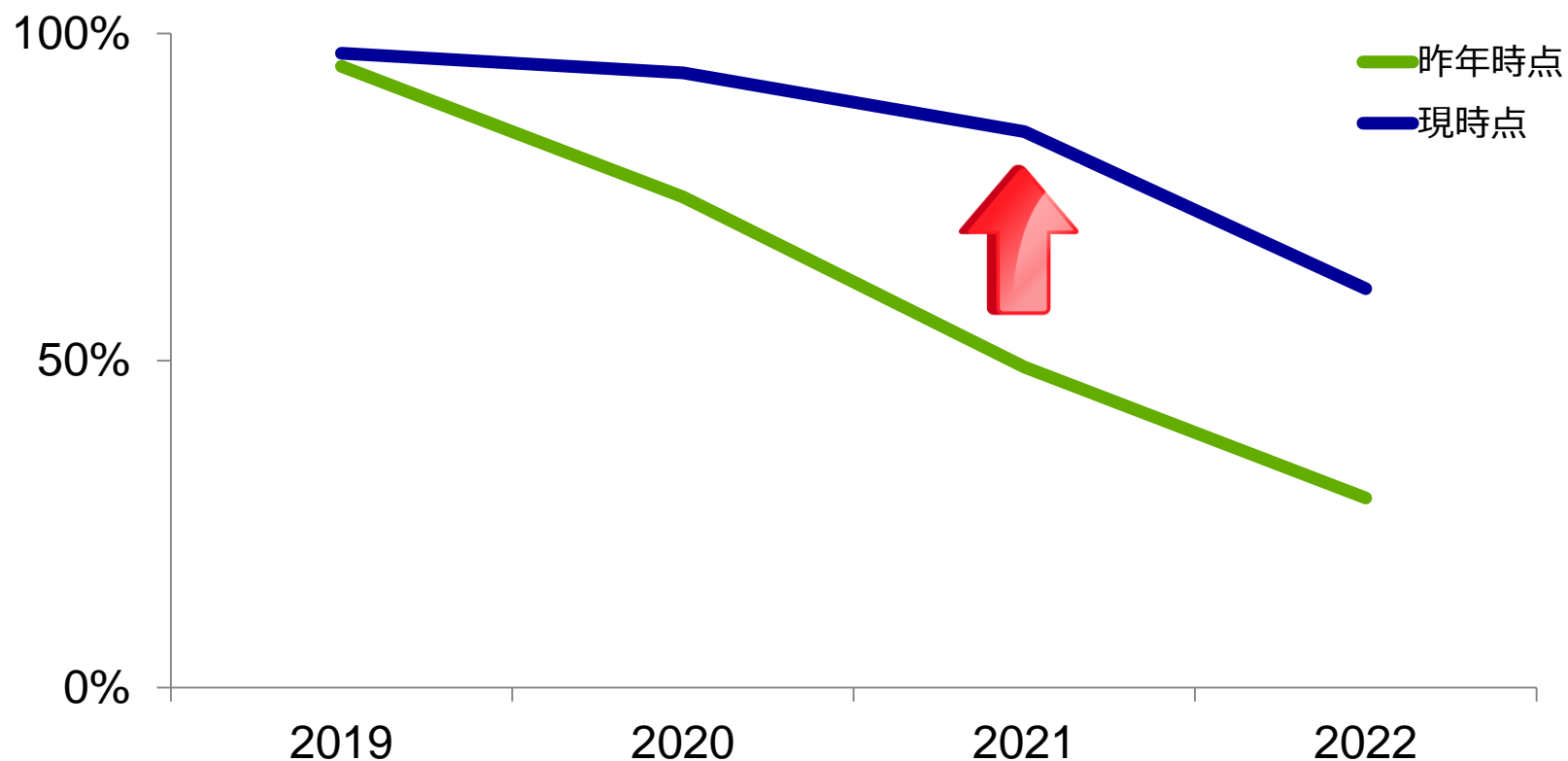
○ ASEANの売上・収益貢献割合が増加
✓ 受注量拡大により能力増強投資を要検討

○ 受注量増大に際してのボトルネック解消
○ コスト競争力の大幅向上
✓ 減価償却・リース料負担継続

中期経営計画 – 2022 BOOKED RATIO推移

各年別のBooked Ratio*は 昨年来の順調な新規受注により、着実に上昇

* Booked Ratio: 各年の想定売上高に対して既存製品と新規受注確定済み分が占める割合



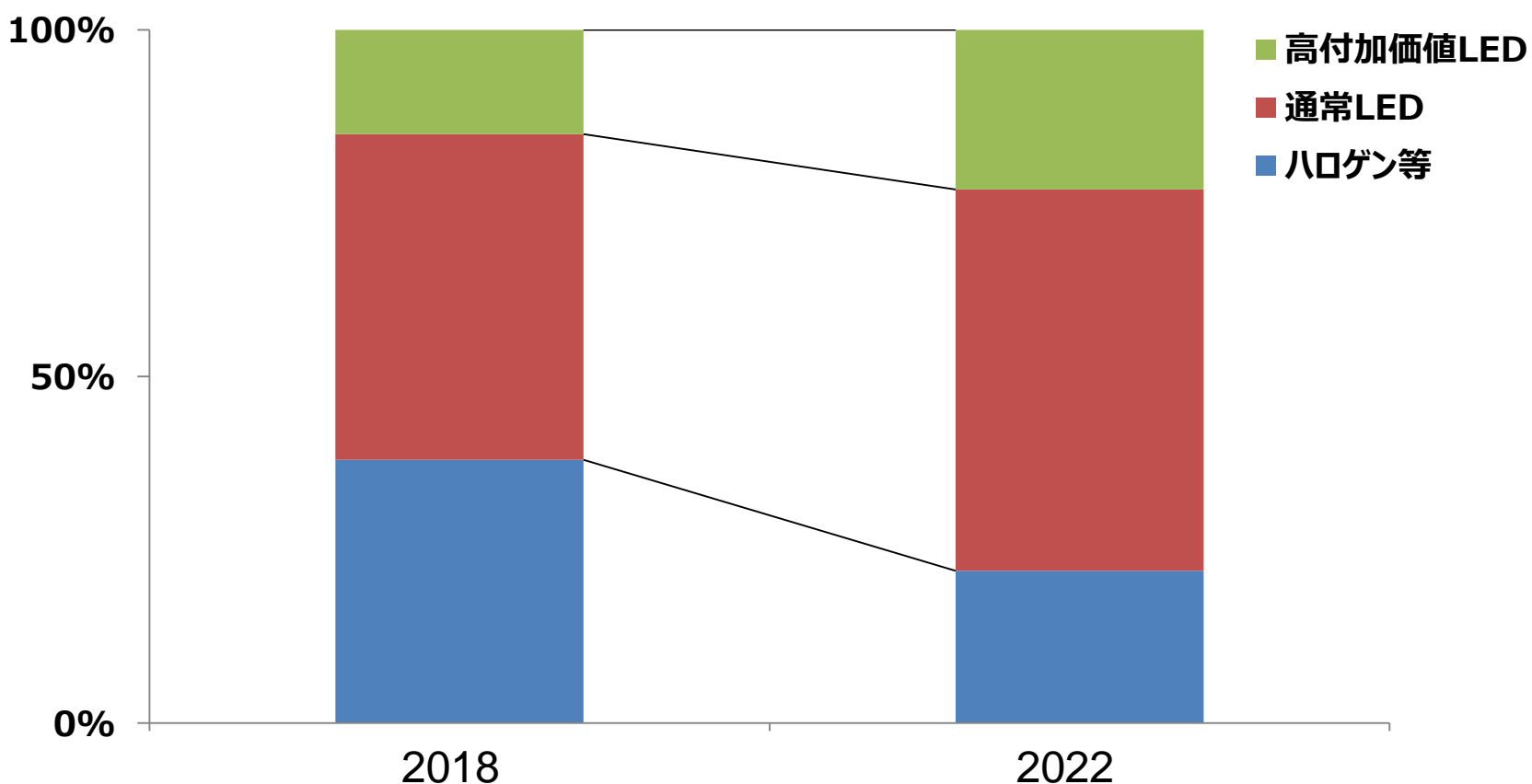
中期経営計画 – 2022 高付加価値品比率推移

高付加価値品比率の上昇により収益性向上

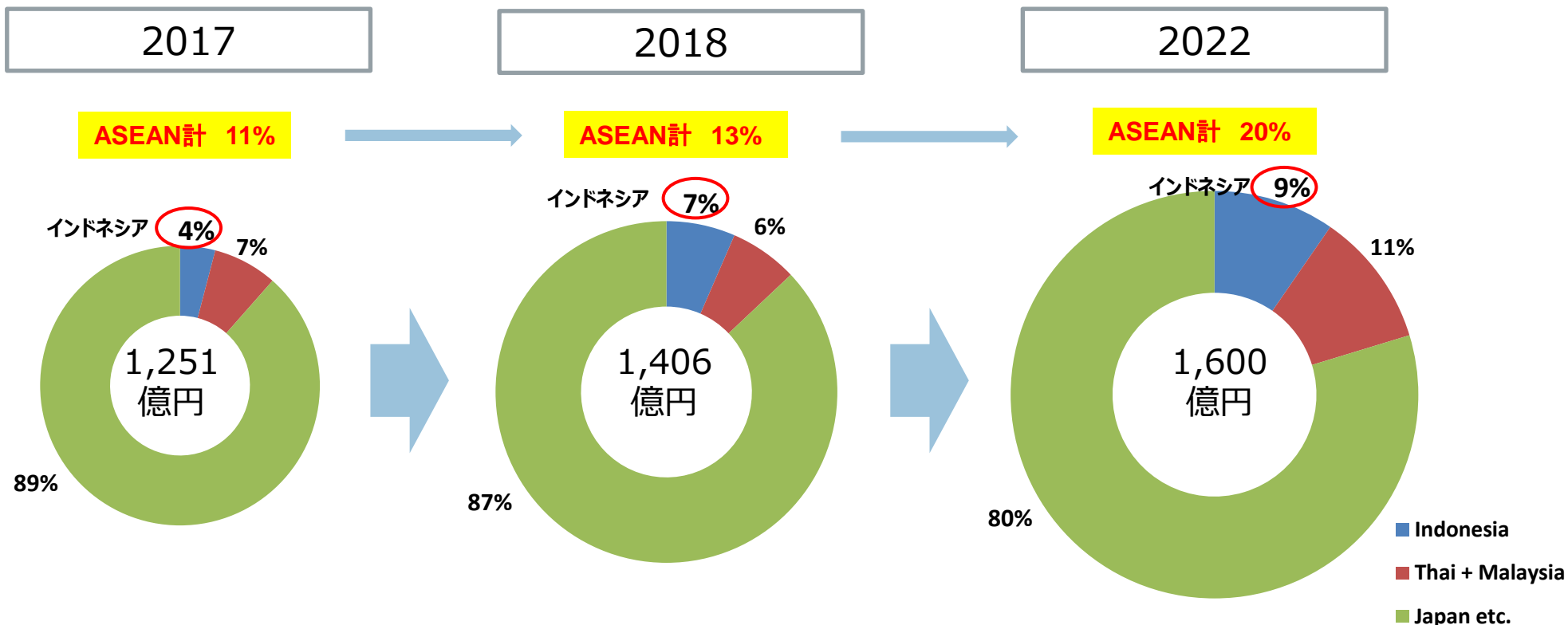


研究開発費負担は増加

ヘッドランプに占める高付加価値品比率(日本、数量ベース)



中期経営計画 – 2022 ASEANの売上高比率推移



ASEANの売上高比率が大幅に増加。特にインドネシアの増加が顕著

能力増強投資検討の要

中期経営計画 – 2022 生産性の向上達成

◆ 生産性、コスト競争力の大幅な向上を達成

- ❖ 厚木新製造所（ヘッドランプ）の竣工
- ❖ 藤岡製造所（リアコンビネーションランプ）の更新投資完了
- ❖ インドネシアでのレイアウト変更投資完了



減価償却・リース料負担は継続

厚木製造所竣工

2019.6.3.付 プレスリリース

厚木製造所では、ヴァレオの革新的な生産コンセプトに基づくリーン生産方式を採用し、協働ロボット、無人搬送車 AGV、自動倉庫管理といった自動化も取り入れます。

これら新技術による「最先端の工場」で、競争力・品質向上を実現し、お客様のニーズと期待にお応えすることにより、顧客満足の最大化が可能になると確信しております。

また、新工場はお客様から委ねられる全新規プロジェクトの生産が可能となる規模を備えており、中期経営計画に沿った事業成長を実現します。

厚木製造所の概要

- ▶ 投資総額：164億円（見込）
- ▶ 所在地：神奈川県厚木市
- ▶ 敷地面積：約64,000㎡
- ▶ 生産開始：2019年9月
- ▶ 生産品目：自動車用ランプ



Appendix

開発製品のご紹介 センサー内蔵ヘッドランプ

先進運転支援システム / 自動運転のための主要なセンサーをヘッドランプに融合



- レンズとハウジングにより、水や埃などから守られながらセンサーが性能を発揮
- 車両の意匠に影響を与えることなく、車両の4隅にセンサーを搭載可能
- ヘッドランプクリーナーでセンサー部も洗浄することができる
- ヘッドランプの光軸調整機構を兼用する事で、センサーの向きを最適に保つ事ができる
- 部品のモジュール化により車両組立工程の簡略化に寄与
- 車両ハーネスの取り回しの簡素化

活用例

- ADAS(先進運転支援システム)
- 自動運転システム
- フリースペース検知
- クロストラフィックアラート
- 駐車支援・自動駐車
- ブラインドスポット検出



開発製品のご紹介 コミュニケーションライティング

自動運転中の車両が、自動的に周囲のドライバーや歩行者に光の色や動きで情報伝達するシステム



- 自動運転車両の状態や行動、意思をライティングで表示
- 周囲の車両のドライバー、歩行者の不安を解消し、交通の流れをスムーズにする
- 様々な危険な状況を光の色や動きで周囲に注意喚起することで、安全性が向上
- 自動運転状態であることを周囲に伝えるAD(Automated Driving) マーカーランプ

活用例

- 車両と所有者とのコミュニケーション： アンサーバック、ウェルカムシナリオ など
- 車両と歩行者とのコミュニケーション： 歩行者優先情報、すり抜け車両の近接情報 など
- 車両と周辺ドライバーとのコミュニケーション： 右左折、後退、サンキュー合図 など
- 車両と歩行者及び周辺ドライバーとのコミュニケーション： 自動運転モード、発進・停止合図、オートパーキング など
- アルファベットや数字による簡単なテキスト表示



開発製品のご紹介 ミラー技術

新構造ドアミラーコンセプト



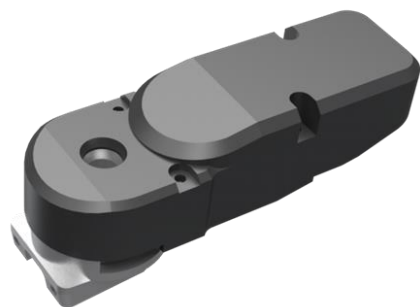
- 異なる機能のアクチュエーターの統合によるフレームレスドアミラー
- ミラー頭部の小型化による意匠性と空力性能の向上
- 従来アクチュエーターよりも可動速度の速いアクチュエーターによって、より多くのシチュエーションでの安全をサポート

活用例

- 進路変更時の死角低減
- 降車時における後方からのすり抜け車両の発見



カメラモニタリングシステム専用電動格納アクチュエーター



- 性能と意匠自由度の両立
- 小型薄型への要求レベルが高いセイルマウントタイプへの適応

予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は市光工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

ICHIKOH
a Valeo company